

ジェイムズ・ステュアートの諸著作探求

渡辺邦博*

『小林 昇経済学史著作集X—J・ステュアート新研究—』[U]**の公刊をもって、J・ステュアート研究は一時期を画することができる。すなわち、これまでステュアートの主著『経済学原理』(*An Inquiry into the Principles of Political Oeconomy: being an essay on the science of domestic policy in free nations*, London, 1767.)について、単独で全巻に互る研究を公刊した者はなかったけれども、これによって『原理』については始めて一通りの見通しを得ることができることとなった。このことは『原理』以外にも政治学的・形而上学的諸論説を残した思想家ステュアートの全貌を描くべくステュアートの他の諸著作にたいする研究を促進することともなったが、本稿は以上の状況に答えて彼の若干の伝記を手がかりに『原理』以外の著作を探索する作業を試みるものである¹⁾。

A・スキナーによる『原理』の新版[R]が出現するまでのあいだ、ステュアートの研究にとって1805年に出された彼の『著作集』(*The Works, Political, Metaphysical, and Chronological, of the late Sir James Steuart of Coltness, Bart...*, 6 vols, London, 1805.)は、一方で彼の諸著作の発掘という点において、『著作集』公刊まではわずか十点足らずしか知られていなかった²⁾ところに、形而上学的諸著作〈『ビーティ論』②0, 『批判的所見』②3, 『神の法論究』②6〉を覆刻、三つの経済学的

* わたなべ くにひろ 奈良産業大学経済学部

** 本文中[A]~[U]は、参考文献を示す。巻末参考文献参照。

本文中①~②3は、ジェイムズ・ステュアートの著作を示す。巻末著作目録参照。

[なお①~③は、それぞれ①1, ②1, ②2の手紙の返事である。]

- 1) ここで、ステュアート自身の著作中特に未公刊の草稿の類いは、研究の現状がそこまで及んでいないことや資料入手上の問題を考慮して他日に譲り、単行本、手紙類を対象とすることとする。最新の成果はスキナー[R]の付録DとEにある。草稿類については川島[T]58-61ページをも参照。
- 2) 夙に*Edinburgh Evening Courant* Oct. 2 1779. 所収の無署名論文やフランス財政論草稿を列挙していた *Scots Magazine* [A] やその引き写しに過ぎない *Gentleman's Magazine*, May 1781, 著作としてはわずか七点しか挙げていない Buchan の「ステュアート追憶」[B] や、チャーマーズ以降に出されキップス [C-1] の要約 James Denniston, Preface to *The Coltness Collections* [C-2] xxi) でしかない「ステュアート夫妻追憶」[E] は、我々の観点からは注目に値しない。

パンフレット『穀物政策論』(2),『ラナーク州』(9),『觀察』(24),『ベンガル鑄貨論』に関する二通の手紙(2)と③等々を追加し、他方で研究に不可欠なメンタル・ヒストリーという点では「ステュアート小伝」[D]を提供して、その後長らくステュアート研究の大枠を決定するものとなったと考えられる³⁾。『著作集』編集に少なからず力を尽くし、この「小伝」の著者とも目されるG・チャーマーズは、ステュアートの死後まもなく、権威ある伝記作家A・キップスによって作成された「ステュアート伝」[C-1]を始めいくつかの伝記的資料をステュアートの近親者から手に入れ、この作業を進めることができた⁴⁾。だが、この『著作集』はその第5巻と第6巻に政治学的著作と形而上学的著作を配備しているとは言え、各巻に立ち入って見るとどのような基準で各著作を配列したのかの分明でないこと、先行する情報にすでに見られた『インド鑄貨コレクション』(45),『酒造業論』(2)を取り落としたことなどに欠陥を持つものであった⁵⁾⁶⁾。

このチャーマーズの枠が破られるのは、『著作集』の刊行後100年以上も経過したジョンソン[N]に始まる。ジョンソンは、新たな発見をしたわけではないが、情報源としてチャーマーズ以前に遡るべく、前述のキップスによる詳細なステュアート伝を収録した『コルトネス・コレクション』[C-2]を使用し始めたからである⁷⁾。ただ、

- 3) 十九世紀半ばまでのステュアート研究については、小林[U]「B マルクスまでのステュアート」を見よ。
- 4) 『穀物政策論』につき A, Hamilton からの情報を得ていたことについては、川島[T] 30ページおよび36—37ページ参照。またチャーマーズは[D] p. 379 の引用に見られる様にすでに『覚え書き』24の存在を知り、それを活用している。また、[D] p. 378 の叙述から知られるように『ラナーク州』(9)の存在を何者かから教えられ、その改訂をも承知していた。ただ、グラスゴウ大学所蔵の著者訂正本によれば、タイトルも『大ブリテンの利益に関する諸考察』と訂正されており、『ラナーク州』の初版に加筆されたことがそのまま『著作集』に盛り込まれたわけではないように思われる。
- 5) チャーマーズ[D]にリストアップされていない『インド鑄貨コレクション』(45)が、ゴールドスミス文庫[J]やクレス文庫[H]に収集された点は、両文庫の炯眼として評価されるべきである。またゴールドスミス文庫やクレス文庫には『ドイツ鑄貨論』(4)のドイツ語オリジナル版、『ベンガル鑄貨論』の二種の版(4)7, 加えてステュアート死後1810年に出された『銀行・貨幣論』(*The Principles of Banks and Banking of Money as Coin and Paper with Consequences of any excessive issue on the National Currency, Course of Exchange, Price of Provisions etc.* London, 1810 & 1812.) も収集されている。
- 6) チャーマーズ以前に遡った情報——*Scots Magazine*, *Gentleman's Magazine*, *Annual Register*, *London Magazine*——を求めているけれども、『著作集』を1806年の出版とするなど DNB [K] は首肯できない点もある。この誤りはスコットランドの二つの人名辞典[F][G]の中[F]に由来するのかも知れない。ボルグレイブ[M]は『原理』1770年版を最終版としてステュアート『原理』の各編解説を行い、『穀物政策論』を1783年とするなど努力の跡も窺われるが、チャーマーズを超えるものではない。
- 7) キップスの「ステュアート伝」はステュアートの死後まもなく——1793年以降かも知れ

『コルトネス・コレクション』所収の「ステュアート伝」は、その序文に「今ではある程度価値を失ったステュアートの諸著作に関する批判的解説を省略して」〔C-2〕pp. xxi) とあるようにキップスの全文ではなく、我々の観点からすると省略された部分にこそ重要な情報が含まれているように思われる。

ちなみに、キップスが独自に「ステュアート伝」草稿に残しながら、『著作集』に吸収され尽くしていないものが存在する。すなわち、部分的にはステュアートの死の直後から知られていた〔A〕数々の草稿の指摘は別としても、前述『インド鋳貨コレクション』もキップスは夙に承知済みであり、1772年にステュアートが東インド会社からベンガル鋳貨の現状について諮問を受けたことにかかわって東インド会社とステュアートとがやり取りの手紙〈Aug. 5, 1772. ①, Sep. 29, 1772. ②〉を交したことが、『酒造業論』をも明示するなど著作情報には無視できないものがある。これはさながら彼の著作についての批判的解説であって、独立のステュアート論を構成できるほどの材料を含んでいる。例えば、『原理』公刊直後いくつかの批評誌に詳細なその書評が現れたが⁸⁾、その論点のいくつかは『原理』の根本的立場に関わるものであった。書評誌の中のひとつ『マンスリー・レビュー』からは、『原理』が大陸〈フランス〉の政策の影響を被っていること、『原理』の諸規制は自由の精神とは相容れないという趣旨の反論を受けたけれども、キップスの草稿には問題の二箇所〈*Monthly Review* XXXVI p. 464 & *ibid*, XXXVII p. 125〉を含む5パラグラフが引用され、それに対して『原理』著作集版で序文に追加された、〈著者は外国でも自国でもなんら先入見は受け入れていない〉という趣旨の反論を加えた8パラグラフ〈*Works* I, pp. vii—viii〉がそっくりキップスの草稿に見られる⁹⁾。さらに、1773年のブリテン鋳貨に関する諮問に答えてステュアートは『原理』の「第三編第一部に追加章を加えた。それは『鋳貨法通過時、1773年のブリテン鋳貨の状態。当時なされた規制の諸結果。並びに金本位確

ない、キップスはD・ステュアートのスミス伝(1793年)を使用しているから——ステュアート夫人の希望により公刊を意図してキップスの手でまとめ上げられたもの〈これが『コルトネス・ベイパーズ』所収のもの〉であったが、夫人の死後『書簡集』〔E〕を整理し、それに「ステュアート伝」を追加したダンロップの手に渡った。『コルトネス・コレクション』ではキップスの草稿の中67—200シートが印刷され、伝記のそれ以外の部分は今のところ草稿状態にある。今回エディンバラ大学の好意により閲覧の機会をえた。

- 8) *Monthly Review* や *Critical Review* 以外に *Scots Magazine* vol. xxix Apr. 1767, pp. 199—201 にも書評が出された。ちなみに、この『マンスリー・レビュー』所収(特に4回連載中の第4回目)の書評については、筆者も含めた研究者の間で掲載月について混乱があったが、今回の再調査の結果『マンスリー・レビュー』の書評は1767年4、5、6月と8月号に掲載されたものであり、当該誌第37巻には7—12月までが収録されており、4回目の書評分である pp. 116—125 は pp. 81—160 に当たる8月号に存在することが確認された。『著作集』Ⅲ、55—57ページや『著作集』Ⅳ、176—178ページの記述「8月」は正確なものである。
- 9) キップス〔C-1〕208—218シート。

立のために展開された方法』と題するものであった。この章は現下のところただ原稿状態のままである¹⁰⁾という記述からすれば、キップスは『著作集』版に先立ち『原理』の改訂を瞥見する機会を持ったと推定できるわけで、この草稿は『原理』ならびに『著作集』形成史上看過することのできない文献と考えなければならない。

ジョンソンを乗り越えステュアート研究に実質上新たなものを付け加えたのはセン〔O〕である。彼は研究領域を『原理』に限定することなく、ステュアートの他の経済学上の諸著作をも取り上げることによって始めてステュアートについて独立の研究書を公刊したが、独自の「ステュアートとインド」というテーマに由来するのか、先行諸文献に依存することなくインド鋳貨に関する多数の手紙を発掘〈June 29, 1772①, Sep. 30, 1772③, Oct. 10, 1772④, Mar. 13, 1775 ②, Mar. 8, 1776②〉だけでなく、チャーマーズ以来長らく忘却されていた『酒造業論』を復活させた。ただし、『コルトネス・コレクション』や *Scots Magazine*〔A〕を参考としながらも、キップスによるオリジナルの「ステュアート伝」は参照していないように思われる。なぜなら、キップスが「ステュアート伝」に転載していた¹¹⁾二通の手紙〈Aug. 5, 1772①, Sep. 29, 1772②〉や『インド鋳貨コレクション』を取り落としているからである¹²⁾。

以上のような諸業績を集大成したのがA・スキナー〔R〕である。彼の最大の貢献の中のひとつは、チャーマーズでもすでに触れられていた1777年の穀物法をめぐる事情を詳らかにし、1777年10月14日付け『穀物法に関する覚え書き』④を覆刻したことに求められる。さらに『良道論』(7)¹³⁾、『素描』(10)、『スコットランド・フリーホルダー論』(27)の発掘も彼の独自の貢献であるが、『コルドウェル・ペーパー』の三論文(5)(6)(9)、インド鋳貨をめぐる二通の手紙〈Aug. 5, 1772①, Sep. 29, 1772②〉はすでに見たように先行する研究があり、『インド鋳貨コレクション』(13)や手紙類¹⁴⁾を取り落とすなど問題がないわけではない。スキナーの仕事には、すでにセン、キャンベル〔Q〕そ

10) キップス〔C-1〕227シート。

11) キップス〔C-1〕223-226シート。

12) 同じ理由から『コルトネス・コレクション』を参照しえたとしても、『コルトネス・ペーパーズ』を見ていないと思われるテイラ〔P〕とキャンベル〔Q〕のうち、後者は、十九世紀半ばに収集公刊された重要ドキュメント『コルドウェル・ペーパーズ』(*Selections from the Family Papers preserved at Caldwell*, 1854.) 中の三論文『スコットランド銀行論』(5)、『スコットランド銀行・紙幣論』(6)、『スコットランド収入論』(9)を発掘するという貢献があった。ただ、その場合でも『穀物政策論』をチャーマーズに引きずられて1777年のものとしたり、『統一論』(3)をバハン〔B〕によって1778年とするなど問題がないわけではない。彼の場合『インド鋳貨コレクション』はクレス・ライブラリ所収のものによるのだろうか。

13) 『良道論』(7) p. 24 には、「近年刊行の『ラナーク州の利益に関する諸考察』を参照せよ」という文言が見られる。

14) ①, ③, ④, ②, ②, ③, ③。

してシャムレー¹⁵⁾の研究が出され、スコットランドという地の利に立ってキップスの草稿始め数々のドキュメントを縦横に駆使できたこともその強みの原因であったように思われる。

以上によってステュアート『著作集』とスキナー版付録Dに付加すべき稿末の著作リストを得ることができるけれども、同時に我々はステュアート研究の一端——『コルトネス・コレクション』や『コルトネス・ペイパーズ』を利用することによってようやくチャーマーズを超えんとする今世紀の流れ——を知ることができた。そこで『原理』最終版たる著作集版を底本とし、それにスキナーによる詳細な注解を付加した『原理』の新版も縮約版であること、『原理』以外の著作に対する研究の機も熟してきたこと、等を考慮すると、『原理』決定版の覆刻を始め他の諸著作の発掘と覆刻が急務であることをも確認できるのである。

ジェイムズ・ステュアート著作目録

- (1) *Apologie du Sentiment de Monsieur le Chevalier Newton sur l'ancienne Chronologie des Grècs, contenant des Responses à toutes les Objections, qui y ont été faites jusqu' à présent*, Frankfurt & Tubingen, 1757. in *Works* VI.
- (2) *A Dissertation on the Policy of Grain, with a View to a Plan for preventing Scarcity or Exorbitant Prices, in the Common Markets of England*, 1759, published by his son, London, 1783. in *Works* V.
- (3) *A Plan for Introducing an Uniformity of Weights and Measures over the World: and for Faciliating the more Speedy Accomplishment of such a Scheme within the Limits of the British Empire*, 1759, published in London, 1790. in *Works* V.
- (4) *Abhandlung von den Grundsätzen der Münzwissenschaft mit einer Anwendung derselben auf das deutsche Münzwesen aus der englischen Originalhanschrift übersesst*, Tübingen, 1761. (Original English edition in *Works* V.)
- (5) Note to the Memorial on Scotch Banking, 1764. *Caldwell Papers*, 1854.
- (6) Thoughts concerning Banks, and the Paper Currency of Scotland, 1764, *Caldwell Papers*, 1854.
- (7) *Observations on the Advantages to the Public from Good Roads. Parti-*

15) Chamley, P., *Documents relatif à Sir James Steuart*, Paris, 1965. 本稿では実現できなかったが、この文献の検討については十分時間をかけ今後の研究課題としたい。

- cularly of the Utility of a short and easy Communications between the Friths of Forth and Clyde; with Remarks on the present Roads leading to Glasgow, n. p. [1766].
- (8) *An Inquiry into the Principles of Political Oeconomy*, 2vols, London; 1767, revised in *Works* I—IV (1805).
 - (9) *Considerations on the Interest of the County of Lanark: in relation to I. Agriculture; II. The Prices of Subsistence; III. The Maintenance of the Poor; IV. The Wages of Servants, Labourers, and Manufacturers; V. The Connexion, and Common Interest of the Land and Trade; VI. The Consequences of the new Canal; VII. The present state of Land-carriage, and of Public Roads; VIII. And to the Policy and Practice observed in Markets*, Glasgow, 1769. in *Works* V.
 - (10) *Sketch of a Plan for executing a set of Roads over all the County of Lanark*, n. p. [1770].
 - (11) Letter from J. Steuart to M. Wilks, dated June 29, 1772. (see Sen[O] p. 172)
 - ① Letter from the East India Company to J. Steuart, dated Aug, 5, 1772. (see Kippis [C-1] sheet 223)
 - (12) Letter from J. Steuart to the East India Company, dated Sep. 29, 1772. (see Kippis [C-1] sheets 224—226)
 - (13) Letter from J. Steuart to the East India Company, dated Sep. 30, 1772. (see Sen[O] p. 172)
 - (14) Letter from J. Steuart to M. Wilks, dated Oct. 10, 1772. (see Sen [O] p. 165)
 - (15) *A Collection of Miscellanies relative to Coinage in India*, n. p. [1772]. (see Kippis [C-1] sheet 222)
 - (16) *The Principles of Money applied to the present State of the Coin of Bengal: Being an Inquiry into the Methods to be used for correcting the Defects of the Present Currency; for stopping the Drains which carry off the Coin; and for extending Circulation by the Means of Paper-Credit*, London, 1772. in *Works* V.
 - (17) Appendix to *The Principles of Money applied to the present State of the Coin of Bengal*, London, 1772. in *Works* V.
 - (18) Additional chapter to *An Inquiry into the Principles of Political Oeconomy* Book III, (Pt. I chapter XVI), 1773. in *Works* II.
 - (19) A State of the Revenue of Scotland, from lame authorities to be corrected,

1773, in *Caldwell Papers*, 1854.

- (20) *Observations on Dr. Beattie's Essay on the Nature and Immutability of Truth*, 1775, in *Works* VI.
- (21) *Observations on the new Bill for altering and amending the laws which regulate the Qualifications of freeholders, &c*, 1775, in *Works* V.
- ② Letter from Sir P. Francis to J. Steuart dated Mar. 13, 1775. (see Sen [O] p. 174.)
- (22) Letter from J. Steuart to P. Francis, dated Mar. 8, 1776. (see Sen [O] p. 165 & 176.)
- ③ Letter from P. Francis to J. Steuart, dated Nov. 20, 1776, in *Works* V.
- (23) Letter from J. Steuart to P. Francis, dated Sept. 12, 1777, in *Works* V.
- (24) Memorial on the Corn Laws, Oct. 14, 1777, Chamley, pp. 140—142, Skinner [R] pp. 737—738.
- (25) *Critical Remarks and General Observations upon a Book, entitled System of Nature or, Laws of the Physical and Moral World; by M. de Mirabaud*, 1779, in *Works* VI.
- (26) *Dissertation concerning Motives of Obedience to the Laws of God*, 1779, in *Works* VI.
- (27) An Address to the Gentlemen Freeholders of Scotland, in *Edinburgh Evening Courant*, Oct. 2, 1779.
- (28) Observations on the State of the Distillery and Brewery, in *Edinburgh Evening Courant*, Oct. 4, 1779.

参 考 文 献

- [A] *Scots Magazine*, Dec. 1780.
- [B] The Right Hon. the Earl of Buchan, *Memoirs of the Life of Sir James Steuart Denham, Baronet, Archaeologia Scotia: or Transactions of the Society of Antiquaries of Scotland*, I 1792.
- [C] Dr. Andrew Kippis, *The Life of Sir James Steuart Denham of Coltness and Westshield, Baronet*, in *Coltness Papers*, [C-1] partly printed in *The Coltness Collections*, M. DC. VIII—M. DCCC. XL. Printed for The Maitland Club, M. DCCC. XLII. [C-2]
- [D] [George Chalmers], *Anecdotes of the life of Sir James Steuart, Baronet*, in 6th Vol. of *Sir James Steuart's Works*, 1805.

- [E] Memoirs of Sir James & Frances Steuart, in *Original Letters from the Right Honourable Lady Mary Wortley Montague, to Sir James & Lady Frances Steuart; also, Memoirs and Anecdotes of those distinguished persons*, Greenock, 1818.
- [F] Chambers, Robert, *A Biographical Dictionary of Eminent Scotsmen*. new edit. Glasgow, 1855.
- [G] Anderson, William, *The Scottish Nations; or the Surnames, families, literature, honours, and Biographical History of the People of Scotland*, Edinburgh & London, 1870.
- [H] *The Kress Library of Business and Economics Catalogue covering Materials published through 1776*, Boston, 1940.
- [I] *The Kress Library of Business and Economics Catalogue 1777—1817*, Boston, 1957.
- [J] *Catalogue of the Goldsmiths' Library of Economic Literature. Vol. I: Printed Books to 1800*, London, 1970.
- [K] Stephen, Leslie and Lie, Sydney, *Dictionary of National Biography*. London, 1885—1901.
- [L] Dr. Heinrich Waentig, Steuart, in Erster Band, *Untersuchung über die Grundsätze der Volkswirtschaftslehre von Sir James Steuart, Bart. Aus dem englischen Original ins Deutsche übertragen von A. John und eingeleitet von Professor Dr. Heinrich Waentig in Halle a. S.*, Jena, 1913.
- [M] *Palgrave's Dictionary of Political Economy*, edited by H. Higgs, London, 1926.
- [N] Johnson, E. A. J: *Predecessors of Adam Smith: the Growth of British Economic Thought*. New York, 1937.
- [O] Sen, S. R, *The Economics of Sir James Steuart*. Cambridge, Mass., 1957.
- [P] Taylor, W. L, A Short Life of Sir James Steuart—Political Economist. *The South African Journal of Economics*, 25 (4) Dec. 1957.
- [Q] Campbell, Robert, *Sir James Steuart—A Study of the Development of Economic Thought*. Ph. D. Thesis University of California, 1959.
- [R] Skinner, Andrew S, Biographical Sketch, The Life of Sir James Steuart-Denham 1713—1780. in *Sir James Steuart An Inquiry into the Principles of Political Oeconomy*, Edited and with an Introduction by A. S. Skinner, 2vols. Edinburgh & London, 1966.

- [S] Stark, Werner, Steuart, James Denham, *International Encyclopedia of Social Science*, New York, 1968.
- [T] 川島信義：「J・ステュアート全集」の発刊とジョージ・チャーマーズ；経済学論集（西南学院大）10(1), (8, 1975)
- [U] 『小林 昇経済学史著作集X—J・ステュアート新研究—』, 1988年

〔末尾ながら、本稿作成に必要な文献の収集にご協力いただいた、グラスゴウ留学中の渡辺恵一氏（京都学園大）を始め、竹本 洋（大阪経済大）、田中秀夫（甲南大）、飯塚正朝（佐賀大）、松本有一（関西学院大）の各氏に感謝したい。

さらに、非常勤講師の筆者のためにエディンバラ大学からマイクロフィルムを取り寄せていただいた桃山学院大図書館スタッフ、とくに吉田雅憲氏に単なる儀礼ではなく謝意を表する。〕

(1988. 12. 28)